

平成27年度 長野県岩村田高等学校の教育方針と目標

本校の教育方針			
1 心身の調和のとれた健全な人間の育成 2 協調性に富み、道理をわきまえ、円満な団体生活を営み得る人間の育成 3 現代文化に貢献し得る基礎的学力を具備した人間の育成 4 質実剛健にして勤労を愛好する人間の育成 5 自主的・意欲的で創造性の豊かな人間の育成			
中・長期的目標	今年度の重点目標	自己評価	成果・今後の課題等
1 急速な社会の変化に対応して生きていく力を、生徒に確実に身につけさせる。 2 本校に対する地域の要望を積極的に受け止め、開かれた学校を実現する。 3 学校再編をひかえ、より充実したカリキュラムの編成を研究する。	① 文武両道を基本として生徒・保護者・地域の願いに応える学校づくり ② 講義式授業から双方向型授業を取り入れる努力をし、自ら考え発信できる生徒を育てる授業づくり ③ 特別活動をととして心身の健全な発達を促す学校づくり ④ いじめ・暴力・体罰等がない安全で安心できる学習環境作り	A	① 文武両道を基本として教育の実践ができた。 ② 双方向型授業をいくつかの講座で実践することができた。 ③ 様々な特別活動を実践し、生徒達が活躍する姿が見られた。 ④ アンケートによる、いじめ・暴力・体罰等の実態調査を実施し、個々の事例に応じた対応ができた。

分野別の評価項目と具体的活動

領域	分野	評価(指導)項	具体的活動(評価の観点)	中間報告	自己評価	成果・今後の課題等	
教育活動	学習指導	教育課程の改善	教育課程の研究および検討	現行教育課程の次年度選択科目の検討と決定を行う。また、次年度以降の教育課程の検討も行う。55分授業等の授業時間については、教務係、学習指導係と連携して検討を続ける。	現行教育課程の次年度選択科目の検討と決定並びに次年度以降の教育課程の検討を行った。授業時間等の検討は引き続き教務係、学習係と連携して検討を続ける。	A	現行教育課程の次年度選択科目の検討を行い、選択科目を決定した。また、平成28年度以降の教育課程の検討もを行い、確定した。55分授業等の授業時間については、教務係、校務運営委員会と連携して更に検討を続ける。
		学力の定着・向上	学習条件の整備	学力の定着と向上を目指すため、放課後の学年別学習室の開設(4月5月～)、特編授業(長期休業中)・補習(1年7回、2年7回、3年8回)・模試(1年3回、2年4回、3年12回)等を計画実施する。進路係と連携しながら「進路・学習の手引き」を毎年改編し、年度当初より活用させる。	普通科単独校として「進路学習の手引き」を1～3学年版を毎年生徒の実態に合わせて改訂し、配布。各学年で生徒の学習指導に役立っている。進路係と連携しながら、4月当初より活用できるように3月までに完成製本することが肝要である。	A	【成果】ほぼ計画通り実施できた。 【課題】特編のあり方、計画など進路係と連携をはかりながら「岩高モデル」を構築し継続的に実施できるものを構築したい。(普通科単独校となった今年度のものをベースにして次年度から定着をはかりたい)
			家庭学習習慣の定着	自学自習の意義を理解させ1、2年生は「平日2時間、休日3時間または週21時間以上」の家庭学習時間確保を目標とさせる。各学年で計画・実施する学習への動機付け、学習習慣の定着を図る。またその補助となるよう各教科で年間を通した計画的な平日課題・週末課題を課し、「進路・学習の手引き」巻末付属の「学習記録」を活用させる。担任ばかりでなく教科担任も個別相談の判断材料としてその記録を活用する。	4月当初「進路学習の手引き」を配布し家庭学習の大切さを促した。また、巻末付属の「学習記録」を活用し定期考査ごとに家庭学習強化週間を実施した。今後の家庭学習強化週間を更に充実させるため、学年別の取り組みをさらに充実させていきたい。	B	【成果】進路の手引きを有効に利用することが出来た。各学年用の学習室を設置し意識の向上をはかった。 【課題】放課後補習や特編授業などにおいて学習室の利用団体の状況を周知させることを徹底する。また、施設担当当番に関しては進路・教務と連携しながら検討していく。低学年のうちから、家庭学習の必要性や時間を確保する手立てを学年主導で考える必要がある。
		人権・平和教育の充実	人権・平和教育の充実	人権教育、文化祭、修学旅行(沖縄方面)、生徒会活動、教科学習などを通じて、鋭い人権感覚と平和意識を持った生徒の育成を目指す。	6月に県教委心の支援課より講師の先生をお招きし職員研修を行い、8月には性被害防止キャラバン隊という事業にのる形で、全校向けに講話を行った。	A	【成果】研修への参加。人権教育に対する意識・理解を深めることができた。・校内職員研修の実施。 【課題】一般的に人権という言葉が広く解釈されているのに合わせて本校らしい人権教育を展開したい。
	進路指導	進路目標の明確化	年間計画の設定と3年間を見通した進路計画	3年間を通じた進路計画のもとに各学年ごとの進路目標と計画をたて、指導に生かす。(3年間を通じて目指すものは生徒の自己管理能力をつけ、自らの考えて学べる姿勢を養うこと)個々の生徒の進路実現のために、個別相談、生活リズム・学習の方法などを示し、生徒一人一人への丁寧な指導を行っていく。	個別指導を必要とする3年生へ月1回程度の頻度で面談を行っている。手帳に学習の記録をつけさせ、継続的かつ効果的な学習が行えるよう随時確認している。1、2年生については担任がおのおの学習の記録を点検し指導をしている。	A	【成果】各学年の年間計画に沿った学習・進路指導が実施された。 3学年については進路学習に関する個別指導を充実させ、年間5回以上の面談期間を設けた。 【課題】学年の計画については、明確なねらいのもとに詳細な計画書を年度当初に示す必要がある。
		進路情報の提供	職員の進路情報共有	職員会議や進路研究会を通じて、生徒の実態や進路指導対策について係より資料提供をし、意見交流を通じて情報の共有化をはかる。また模試分析会を定期的に行い、学年で必要な対策について検討する。	模擬試験の結果を職員会議で随時公表し、学年ごとに課題の検討を行っている。進路研究会は10/28に実施予定。	A	【成果】模擬試験の経過については、学年ごとに随時、職員会議で報告し課題を示している。進路研究会では現3年生の状況を伝えることで、1、2学年の参考になる情報提供を行った。 【課題】次の学年へ反省点を伝え、修正していくことが重要。
			生徒への情報提供	「進路通信」や進路講演会、掲示物、情報誌、個人面談を通じて、生徒が進学先についての研究・検討ができるような手助けをする。特に3学年については、「3学年進路通信」を発行し、「今何をすべきか」を伝えつつ、円滑に受験準備に迎えるようにする。	学校全体の進路通信は3回、3学年を対象とした進路通信は月2回のペースで発行し、進路に関する情報提供や心掛けについて伝えている。	A	【成果】進路通信は全学年向けに4回(3学期にあと1回発行予定)、3学年向けに18回発行した。
		保護者への情報提供	年に4回「保護者のための進学講座」を開講し、進学に関わる現状や保護者に知ってもらいたいことなどを伝え、本校の進路指導のあり方を理解してもらおう。また、PTA支部総会を通じて、本校の進路指導の活動や進路結果を提供する場とする。	4～5月に3回「保護者のための進学講座」を行い、のべ350人近くに参加をいただいた。内容は進路全般に対する情報提供や学年ごとの学習や進路に対する悩み、教科選択の考え方について取り扱った。第4回は10月予定。	B	【成果】4～5月に3回「保護者のための進学講座」を行い、のべ350人近くに参加をいただいた。内容は進路全般に対する情報提供や学年ごとの学習や進路に対する悩み、教科選択の考え方について取り扱った。第4回は3年生の保護者を中心に50名程度参加していただいた。	
	キャリア教育の充実	キャリア形成と	総合学習の時間等に講演会・ガイダンスを計画し、学ぶ力・生きる力を身につけさせる。また、1年生対象に一人一研究をして研究発表会を行い、自己探求と、情報を共有し自ら発信する力を養う。インターシップ、企業見学等を利用し、キャリア形成のための継続指導を行う。卒業生の講話や大学公開講座、ガイダンスへの積極的な参加を促し、進路意識を喚起する。各種体験学習への参加を呼びかける。	1年生は4月にコミュニケーション活動・スマホ講座・マインドマップ講座を行った。また、夏休み中に就業体験かオープンキャンパスに全員参加した。2年は各クラスで進路に沿ったキャリア研究を行うと同時に、7月に1年と合同で進路研究講座に参加した。また夏休み中の研究の成果をまとめ、9月に発表会をした。3年は各自の具体的な目標に向かって学習を深め、保育の授業では27名が幼稚園で保育実習を行った。看護体験には1年から3年まで50人、臨床検査技師及び言語聴覚士の学習会に8名が参加している。	A	【成果】1年生は夏休みに全員が就業体験あるいは大学のオープンキャンパスに参加した。事前学習を通して進路に対しての意識を高めた。2年生は各クラスで進路に沿ったキャリア教育を行い、医療系の就業体験にも積極的に参加した。3年生は各自の目標に向かって学習を深め、保育の授業では全員が保育実習を行い、医療関係の体験や見学会にも参加した。また、1、2年生は佐久平交流センターで研究発表会を行い、好評であった。外部講師による各種講座(コミュニケーション活動・スマホ講座・マインドマップ講座・速読講座・進学講座・佐久病院のスタッフによる医療講座・先輩との交流)も予定通り行えた。	
	生活指導	基本的生活習慣の確立	基本的生活習慣の確立	集団のなかでルールを守って生活する基本的生活習慣を身につけさせる。無断欠席・遅刻のないよう指導する。きちんとした挨拶をさせ、清楚な身だしなみを心がけさせる。また、情報モラルについての指導も行う。生徒指導ニュースを発行し啓発活動につとめる。	基本的生活習慣はおおむね出来ている。最近特定の生徒の遅刻者が目立つ。問題行動は0件を更新中である。	B	問題行動は一件に止まったが、声かけの被害が3件発生した。女子生徒のスカート丈の短さ、スマホの運用も改善したい。
			清美	校内清掃による美化の推進に努める。ゴミの減量化と分別の徹底による地球環境を意識した活動を行う。清美委員会を中心に、生徒自らの手による整理整頓された学習環境作りを推進する。	①全清掃箇所のモップ交換・洗濯を実施した。②清掃分担クラスを掲示した。③清美委員会役員が献身的に清掃当番等の活動をしている。④10/5 秋の特別清掃実施予定。	B	学年当初：全校一斉に清掃用具点検(モップ交換含む)とその保管場所の確認を実施でき、清美活動の環境を整えることができた。 10月：クラスマッチ後特別清掃実施。12月：清美委員による電気科棟周辺の落ち葉清掃実施。
		相談体制の充実	支援を必要とする生徒・保護者・職員のサポート	相談室における教育相談体制の充実と生徒への周知、またカウンセラー来校を周知徹底し外部相談機関の案内も充実させる。毎週(木⑦)に教育相談委員会を開催し、様々な相談に対応できるように努める。今年度も「いじめ・悩み実態調査」を2回(5月と11月)実施し、教育相談体制の一層の強化を図る。	4月に教育相談委員・カウンセラーによる相談時間割をHR教室等に掲示し相談体制を周知した。5月に「いじめ・悩みアンケート」を全校に実施、毎週開催の教育相談委員会と併せて生徒の状況把握・その状況を職員間で共有するように努めた。9月までにカウンセリングを延べ13人の生徒・保護者が利用し、相談体制を活用できている	A	【成果】12月までに延べ19人の生徒・保護者がカウンセリングを利用し、相談体制を活用できている。教育相談委員会を毎週実施、必要に応じて中学校に情報を開いたりS Wの協力など校外で生徒状況の掌握に努め、教職員間での情報の共有ができた。「いじめ・悩み実態調査」を2回実施し問題の発掘・観察に努めた。生徒支援に必要な研修も積極的に参加した。【課題】今年度実施した活動の充実
交通安全指導			自転車・バイク事故を昨年より減らすために、生徒会との連携をはかり交通安全指導を春・秋2回実施するとともに、バイク通学者や原付免許所有者を主体とし自動車学校での交通安全教育を5/28・9/18に実施する。さらに、スクアードストレイトによる自転車の交通安全教室を全校で5/19に実施する。また、不審者情報や事故発生時には、岩高ネット連絡システムで周知する。	5/19のスクアードストレイトによる自転車の交通安全教室は予定どおり実施出来有効で現在自転車事故は0件。バイクの自損事故1件発生したが、軽症で済んだ。春に続き秋の交通安全週間時に交通指導を生徒と一緒に実施する。	A	スクアードストレイト・4月生徒校風委員会も一緒に立ち番した夏秋の交通安全週間等で昨年8件だった自転車事故が現在まで0件。	
健康・安全確保と環境づくり	健康・安全確保と環境づくり	生徒各自が自分の健康状態を把握できるような情報を提供し、学校生活の基盤となる身体や心の健康を築き上げられるように、支援する。また健康を書きやすい服装をするように、啓発をする。	生徒が健康状態を把握し季節に合った服装など出来るようになってきているが、各自の自己管理で、マスクやティッシュなど用意が出来ない生徒もいるので、指導する必要がある。	B	【成果】熱中症・風邪・インフルエンザ等の予防接種・ノロウィルスに対して注意を呼びかけ、手洗いの励行やマスクの着用を積極的に呼び掛けている。気温が下がる時期に、女子のスカートが短く素足でいる生徒もいるので健康を害さない服装で生活するように指導した。 【課題】自己管理をしっかり生徒個人が行こなうことを目標に、予防をするように常時指導をしていく必要がある。		

領域	分野	種(指導)項	具体的活動(評価の観点)	中間報告	自己評価	成果・今後の課題等	
教育活動	特別活動	自主・自立した活動	形だけが先行して中身の伴わない行動にならないように規律と自主性を第一義におき、挨拶運動、ボランティア活動、情報発信など前向きな活動に取り組む。	惰性になりつつある挨拶運動を改善するため、本年度より月の始まり7日間は必ずおこなうという目標を立てておこなっている。今後も続ける予定であるが、挨拶の大切さを改めて認識させ先細りにならないよう指導する必要がある。	A	【成果】平成23年度から継続している、東日本大震災救援募金活動(¥72,135)を校内外で実施。校外ではJR佐久平駅前広場で街頭募金を生徒会役員や有志を中心に行った。4年間での累積募金額は¥663,638となった。リサイクル委員会でもエコキャップ推進活動に継続的に取り組んでおり、累計206人分のポリオウチンを贈った(平成27年12月現在)。全校勤労日では学校周辺のゴミ拾いを実施した。情宣については掲示板やホームページを活用し、クラブや行事の活躍の様子を紹介、メッセージボードを企画し全校参加型の掲示活動も行った。中学生体験入学での学校紹介や生徒総会等各行事における段取り、運営も実施し大いに貢献した。「挨拶運動の活性化」は本年度生徒会長の公約でもあり、執行部の生徒だけではなく、校風委員にも協力してもらい多くの人数でおこない、今まで以上に活気がある中で行うことができた。また、生徒昇降口をイルミネーションで飾る企画を自主的に運営し行うことができた。 【課題】普通科単独校となり生徒数が急減した。今まで以上に意義を明確にして活動の引き継ぎをしないと、生徒会活動の衰退につながる危険性がある。今後も創意工夫を重ねることで活動内容の充実をはかる必要がある。	
		文化祭の発表	企画・立案・運営のすべてを生徒自らが作り上げ、校内にとどまらず地域や日本国内外に向けた発表要素を含む文化祭となるように支援する。 普通科単独校として、生徒や来校者の心に残る展示やイベントの企画を目指す。	本年度より新たな試みとして1、2学年合唱コンクールをおこなった。質の高い発表ができた。来年度も引き続きおこないたい。一般公開に向けてお客さんに満足していただける企画を立案、実行することができた。	A	【成果】月別計画表を作成し、生徒自ら文化祭を作り上げることが出来た。前年度に引き続き文化祭直前にガイドブック「岩高祭の手引き」を製作し、各部署の動きが明瞭になり役員や職員から大変好評であった。また、全校生徒による「ステージバック製作」は昨年度に引き続き大成功を収めた。昨年引き続き校庭企画、階段アート、展示教室への案内線も大変好評であった。お客さんと呼ばうというかけ声の下にいくつかの新しい企画が実施された。クラス展では当初懸念された「お化け屋敷」を1年と2年、2箇所でおこなったが、目立った混乱もなくおこなうことができた。2学年の沖縄展においては物産展を久々に行うなど展示にとどまらない内容を含め歴史、戦争、自然、文化をテーマにしたレベルの高い発表が出来た。【課題】生徒急減期を考慮しつつ活動の企画計画の合理化を推し進めながら、更なる活動内容の充実をはかる。	
		全活動の支援	学習との両立をはかりながら生徒会活動、クラブ活動へ積極的に参加し、自主的・主体的活動ができるよう支援する。競技、種目毎の目標を持たせ心身の発達と技術向上を目指す。	生徒会活動においては昨年以上に時間に対する意識を極力持たせて指導した結果、時間に対してルーズな状況は改善された。クラブ活動については顧問と協力しながらよりよい方向を検討中。	A	班室の使い方についてはこの一年間を通して時間のけじめをきちんとつけることができるようになった。学校全体の生徒数が激減して、各班の活動状況の衰退が懸念された。班によっては人数が集まらず活動が難しい面もあったが、意欲的に活動することができた。	
		生徒の健康・安全管理の徹底	校内の安全を確保し十分な活動が行えるよう、環境を整備する。健康管理と救急体制の指導を徹底し、一層の安全意識を高める努力をする。	生徒が安全に部活動が出来るように環境を整備していく。また健康管理と救急体制の指導を徹底し、生徒が安全に班活動が出来るように努力をする。	A	生徒が安全に部活動が出来た。また健康管理と救急体制がしっかりとれていた	
*	開かれた学校づくり	地域活動の推進	委員会の地域清掃活動や班活動を発表する機会を積極的に持ち、地域貢献の実施と地域交流が深まるよう支援する。	清美委員会を中心に全校勤労日を設け地域清掃(6/22)をおこなった。10月以降、演劇班・佐久の演劇祭、吹奏楽班・中学生を交えたイベント、将棋班・佐久商工会主催の催し物等に参加する予定である。	A	【成果】清美委員会を中心に学校周辺の清掃活動をおこなった。班活動に於いては各種催し物に積極的に参加し地域との交流を図った。(囲碁将棋班は岩村田商店街のチャレンジショップに参加。吹奏楽班・音楽同好会は佐久創造館主催「大きな輪となれジョイントコンサート」に参加。演劇班は佐久創造館主催の佐久演劇祭に参加。ボランティア班は、障害児施設「小諸養護学校」の「緑のまきは学園」の行事の手伝い。等) 生徒会執行部は飲酒撲滅キャンペーンへ参加した。また、ボランティア班と生徒会役員と共に佐久平駅前を彩るイルミネーションの飾り付け作業を手伝った。 【課題】生徒減により地域交流が不活性化しないように積極的に生徒参加を促す必要がある。	
		体験入学	体験入学を8月4日に実施する。参加者には説明や体験授業、クラブ見学をとおして本校に対する理解を深めてもらう。また進路選択の参考となるような情報を提供する。	普通科単独校としての体験入学であったが、約600人という大勢の参加者を得られた。日程・内容等大きな問題もなく、また参加者からも好印象を持ってもらったと思われる。	B	中学生661名、保護者70名の参加を得た。全20講座を2つのグループに分け、説明会と体験授業を交互に行った。参加者の多くが興味を持つことができ良かったとのアンケート結果が得られた。 【課題】来年度は、中学生に事前に受講希望教科の調査をしてから、体験授業に臨ませたい。	
		授業公開	昨年度に引き続き普通科の土曜日授業(年7回)を公開とする。本校生の保護者はもちろん、中学生やその保護者、地域の方々、また本校職員にも授業を見てもらうことで、本校の教育に関する意見をもらいたい。いただいたご意見は有効に活用して授業改善や本校の教育力の向上に生かしていく。	これまでに土曜公開授業を3回行い、中学生、中学生の保護者、本校生の保護者など、延べ104名の参観を頂いた。授業感想を書いていただき、職員に掲示し、授業改善に役立っている。	B	これまでに土曜授業公開を7回行い、中学生、中学生の保護者、本校生の保護者など、延べ140名の参観を頂いた。授業感想を書いていただき、職員に提示し、授業改善に役立てることができた。クラブ活動の影響等で開催日が冬季に片寄ってしまうことの改善が課題である。	
		学校紹介の充実	「フォトニュース」等を通して、岩村田高校生の活動状況を中学校へ発信し、本校の魅力をアピールする。機会をみて、中学校を訪問し、本校の教育内容についての理解を深めてもらう。出前授業も積極的に実施したい。	「フォトニュース」を4号発行し、中学校に発信している。校長が中学校訪問を積極的に行い、本校の教育内容についての理解を深めてもらうように努めている。浅間中学校での出前授業を10月22日に計画している。	B	これまで「フォトニュース」を6号発行し、中学校に発信した。校長が中学校訪問を積極的に行い、本校の教育内容についての理解を深めてもらうように努めた。浅間中学校での出前授業を実施した。	
*	職員研修	保護者・地域との連携	PTAとの連携・要望の集約	新校になって再編成した支部PTA(22支部から16支部に)総会はスムーズに開催できた。参加率は昨年並みの70%であり有意義な懇談会になった。PTA総会に続き、文化講演会は上田情報ビジネス専門学校の比田井和孝先生を講師に「幸せな人生を歩むためにとても大切なこと」の講演を聴いた。その後の学級PTA(参加率約33%)では担任との交流ができた。文化祭のパザーでは会員の減少の影響が心配されたが積極的な協力があり売上は昨年並みになり生徒会に15万円寄贈した。 支部PTAで何った会員の意見・要望を検討し、改善を図った。毎年要望のある卒業式の服装については会員全体にアンケートを実施(回収率65%)し検討している。	A	【成果】支部PTAの再編成した支部もあったが混乱なくスムーズに開催できた。参加率は70%で進路、生活指導の説明をし、学校への意見・要望を聞いた。・PTA総会(参加率15%)、文化講演会(参加率20%)は、上田情報ビジネス専門学校の比田井和孝先生を講師に「幸せな人生を歩むためにとても大切なこと」の講演を聴いた。学級PTAは(参加率33%)担任との交流ができた。・文化祭のパザーは、会員の減少の影響もなく昨年並みの売り上げで生徒会に15万円を寄贈した。 【課題】岩高ネット連絡システムの利用を上げ、支部PTAの参加・PTA総会の参加を促し、PTA会員との活動を強化する。	
		学習指導の改善	教科における授業の研修・研究	全教科新教育課程の初年度にあたり講習会・研修会に積極的に参加し、情報を共有しながら授業力の向上に努める。双方向型授業において視察等を行い、生徒実態に対応できる部分から授業改善につなげる。公開授業でいただいたご意見を授業改善、本校の教育力の向上に生かす。校内での授業研究週間を2回設定し、研究授業・授業公開を行い授業力向上、わかりやすい授業を目指す。進路と連携しながら生徒対象の授業アンケート、年度末には生徒・保護者を対象に満足度アンケートを実施し、アンケートに寄せられた要望・意見を真摯に受け止め、教科内でも授業力向上への方策を研究する。総合教育センター等の各種研修会の情報を提供し、積極的な参加を促す。	双方向型授業の導入に関しては、完全講義型授業と併用しながら意欲的に取り組むことができた。課題等を情報共有しながら、さらに充実させていきたい。7月に授業アンケートを行い、双方向型授業の分析等の結果を授業改善に繋げるようにまとめた。新教育課程・新大学入試に対応する教育研究セミナー等に3名が参加し、その成果を学習指導に生かしていきたい。昨年度以降、電子黒板を活用の研究成果を公開授業、体験入学等で積極的に実施しており授業改善に努力している。	B	【成果】本年度から双方向型授業を積極的に導入を進めた。完全講義型授業と併用しながら全職員が意欲的に取り組むことができた。7月、12月に授業アンケートを行い、双方向型授業の分析等の結果を授業改善に繋げていきたい。 【課題】3年生は時間的な制約があるので今後考えていく必要がある。 【成果】新教育課程・新大学入試に対応する教育研究セミナー等に5名が参加し、その成果を学習指導に生かすよう工夫した。電子黒板等の研究成果を公開授業、体験入学等で積極的に実施しており授業改善に努力した。 【課題】次年度以降、本校の教育課程や年層と連動するようさらなる工夫をする必要がある。
*	職員研修	職員人権・同和教育研修	研修会への参加励行	教育センターでの高校人権教育連絡協議会の参加により研修を深め、職員会等で情報の提供に努める。なお、その他の研修会にも積極的に参加する。	教育センターでの高校人権教育連絡協議会への参加。職員研修(県教委・心の支援課に講師を依頼)全校人権教育講話講話(性被害防止キャラバン隊に依頼)を行った。	A	【成果】 ・研修への参加。人権教育に対する意識・理解を深めることができた。 ・校内職員研修の実施。 【課題】 ・一般的に人権という言葉が広く解釈されているのに合わせて本校らしい人権教育を展開したい。